令和5年度第1回（通算第21回）香取市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

【日 時】 令和5年10月27日（金）15：00～

【場 所】 香取市役所 4階庁議室

【出席者】 齋藤委員、額川委員、島崎委員、栗山委員、高橋委員、鈴木委員、山本委員、平山委員、小島委員、潮田委員

（欠席：鳥次委員、菅澤委員、出井委員、小林委員）

事務局： 子育て支援課、学校教育課、社会福祉課

1. 開会

事務局から資料の確認

委員14名中、10名出席により会議の成立を宣言

2. 副会長あいさつ

前回に引き続き、会長の代理を務めさせていただく。最近のインフルエンザの蔓延について危惧しており、日々子供たちの生活が制限なく過ごせることを願っている。本日の議題は計画の進捗状況についての報告が主となる。第2期計画も来年度に最終年度を迎えるにあたり、コロナ前後の検証なども含め、各事業の進捗について注視していく必要があるかと思う。委員の皆様には、各事業のニーズや状況についてご審議をいただくほか、子育て行政についてお気づきの点など様々なご意見をいただきたい。

3. 委員紹介

出席委員及び事務局職員について紹介（自己紹介形式）

4. 協議事項

（1）会長・副会長の選任について

委員から事務局推薦という意見があり、会長及び副会長について、下記のとおり事務局から推薦をし、出席委員により承認がされた。

会長 佐原みどり幼稚園 園長 鈴木 教義 委員

副会長 明照保育園 園長 高橋 弘道 委員

（2）香取市子ども・子育て支援事業計画の実施状況及び進捗状況について

《事務局からの資料説明》

主要事業の実施状況、進捗状況等について説明。

- ・地域子育て支援拠点事業：年々実績人数は増加傾向にはあるが、新型コロナ流行前の状態にまでは戻っていない。

- ・乳児家庭全戸訪問事業：量の見込みに対し実績が上回っているが、保健師、助産師、相談員等による必要な方策、実施体制は確保はされている。
- ・養育支援訪問事業：こども家庭センターに家庭相談員、社会福祉士、保健師等の専門職を配置し、組織的に対応できる体制をとっている。
- ・一時預かり事業：年々事業を実施する施設が増えていることや、事業が認識されたことによるニーズの増加により、利用者数は増加傾向であるが、既存の受け入れ体制で対応が可能と想定している。
- ・放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）：令和4年度に山田第2児童クラブ及び小見川西児童クラブの教室で受け入れ人数を拡大。また、香取・水の郷児童クラブを開設した。
- ・通常保育事業：令和4年度から「おみがわこども園」が民営化、令和5年度から「佐原グレイスこども園」が開設となり、民間保育施設の担う役割がますます大きくなっている。
- ・民間保育施設の整備への支援事業：国・県補助金を活用し、民間の山倉保育園改築に伴う園舎解体工事及び佐原グレイスこども園の建設工事に対して支援を実施。
- ・認定こども園の整備：「佐原グレイスこども園」は、新施設完成までの間既存保育施設で暫定的に保育を実施し、10月30日から牧野地先にある新施設での運営を開始する。
- ・児童遊園・都市公園・市民公園等の設置：児童遊園は、令和4年度に3園を廃止。都市公園の橋ふれあい公園は、パークゴルフ場やキャンプ場が整備され親子で楽しめる施設となった。
- ・佐原駅周辺地区複合公共施設整備：昨年12月に開館し児童書コーナー、全天候型の屋内遊戯施設、一時預かりルーム等が整備され、子育て世代支援施設として運営が開始した。
- ・産科クリニック等の誘致：建設資材の高騰などの影響により、開設予定者において設計の見直しを行っている。
- ・子ども医療費助成事業：令和5年8月から高校生世代の現物給付を開始したほか、ひと月当たりの同一医療機関の受信回数により、無料範囲を追加した。
- ・子ども食堂の推進：令和4年度は佐原地区で3団体、小見川地区で1団体が活動しており、令和5年度は、小見川地区でもう1団体が開設の準備を進めている状況である。

《質疑応答》

(高橋委員)

資料1の5-1 養育支援訪問事業について、量の見込みが50人に対し実績値が多くなっている理由についてお聞きしたい。

(事務局)

現在のこども家庭センターが平成31年4月に子育て世代包括支援センターとして開設され、今まで保育所や学校等でバラバラに受けていた相談を集約し、虐待につながるような細かな相談も受け付けている。社会的な関心も高まり、相談件数が増えてきているものとする。

(高橋委員)

こども家庭センターの設置に伴い、機能が向上したことや虐待への関心が高まったためとのことだが、こども家庭センターでの受け入れ体制は十分整っている状況か。

(事務局)

こども家庭センターは正規職員 6 名のほか会計年度任用職員として保健士、社会福祉士、教員免許保持者、助産師等、専門職 10 名で対応している。相談件数は延べ 8,000 件を超えており、そのうち虐待に関する相談が 6,000 件以上と非常に多い状況であるが、他の機関とも連携を図り対応にあたっている。

(高橋委員)

他の機関というと保育所などとの連携も図っているのかと思う。また、コスモスの花さんとの連携もあるのかと考える。相談を受けた後、他の専門機関などへの引継ぎに関しては、近隣の旭市などと比べると、その受け入れが十分ではないのではないかと。

(事務局)

障がい者支援班と連携し、お子さんの特性に合った施設への連絡調整をさせていただいているが、ご指摘の通り受け入れ施設が十分とは言えない状況と考える。

(高橋委員)

障がい児の受け入れについては、保育所を代表し市へも要望をさせていただいているが、現状として各園での受け入れは難しい状況である。市への相談件数が増えている状況も考慮し、市内全体での受け入れについては、今後の課題であると認識しており、市の対応についてもご検討いただきたい。

(事務局)

様々な事情のあるお子さんについて、すべて保育の中で受け入れていく事は難しいと考えている。その様な中で、養育支援を求められている方々は母子分離型の施設を望まれているという声は届いている。市としても社会福祉課とも連携し、施設設置について前に勧めていかなければいけないと考えている。

(高橋委員)

グレイスこども園の園舎が完成し 11 月から運営を開始するにあたって、夜 10 時までお子さんの受け入れをすると伺っているが、実際その様なニーズはあるのか。

また、めぐみこども園の病後児保育については、コロナ過において一定の利用があったと伺っているが、めぐみこども園に通っている子以外で病後児保育の利用はあるか。市内ニーズを把握するうえで伺いたい。

(事務局)

グレイスこども園の夜 10 時までの夜間保育については、現時点で利用予定者はいないと伺っている。今後の運営の中でそのようなニーズがあれば対応していくとのことである。

病後児保育に関しては、令和 4 年度に 300 人程度を予定していたのに対し、実績としては 106 名であった。この方たちは当初からめぐみこども園に通われていた方であり、それ以外の方々へは、ホームページなどで周知を図っている。また、今後誘致予定の産婦人科では病児保育の機能を備える予定としている。

(高橋委員)

めぐみこども園でも、市内保育所等へ病後児保育の受け入れについて、日頃からお声かけをしているようであり、受け入れにはまだ余力があると聞いている。他園からも含め利用につながるよう、市の広報やサポートについて伺いたい。

(事務局)

昨年度の会議において、市の子育て事業についての周知が不十分であるのご指摘をいただいた。近隣市町ではホームページに特設ページを作って対応している中、当市のホームページについて根本的な改修は難しいながらも、情報を集約し自前で子育て応援特設ページを作成した。子育て世代の悩みや相談事を想定し、多くの情報をわかりやすく整理し、今年の4月から公開している。また、本日お配りしたチラシを保育所を通じ配布したり、母子手帳と一緒に配布し、特設ページの周知を図っている。

(額川委員)

子育て事業についての周知については、会議中での指摘に対し対応をいただきありがたい。しかしながら、特設ページについては、今初めて知ったところであり、周知についての難しさを感じる。例えば香取市もLINEアカウントがあるので、それを利用し情報をプッシュ型で提供してもよいと思う。

(事務局)

LINEを使った周知についても検討しており、そのような方法も活用していきたい。しかしながら、LINEの登録者の属性が幅広いことから、プッシュ型の通知の場合、その情報を全く必要としない方は、煩わしさを感じるなどのデメリットがある。今後、子育て世代など、属性を指定した通知ができないかなど、より良い周知の方法を検討していく。

(額川委員)

資料2の7ページ、小児医療体制の充実についてであるが、以前祝日に子どもが熱を出した際に、佐原県立病院の救急へ連絡したところ、受診を断られてしまった。その際に案内された相談ダイヤルも全くつながらない状況であった。結果的に旭の中央病院に連絡し診てもらったが、距離的にも時間的にも子どもへの負担は大きく、着く頃には自力で歩くことも出来なくなってしまった。休日の担当医についてはホームページに掲載されていたが、いざ子供の体調が悪くなった時になかなかホームページを調べるところまで至らなかった。そういった場合にも事前にLINEでの通知があったりすると便利かと思う。

佐原県立病院で受診を断られたのは今回で3回目であり、小見川医療センターも含めて、香取市の小児医療の体制について不安がある。

(事務局)

子育て応援特設ページでは、いざという時の連絡ダイヤルなども掲載し、困りごとに対し対処できるようにしている。小児医療の体制については、ご指摘のとおり深刻な状況は認識しているが、それと同時にその対策の難しさについても悩ましい課題であると感じている。

(島崎委員)

救急医療の体制については、以前市とも協議をしており、医師会としては休日の救急医療を行う方針を示しているが、市の予算の関係から実現していない。そういった経緯があることはご理解いただきたい。またこの件に限らず、多額の費用をかけパークゴルフ場の建設などを進める一方で、給食費の無料化などが進まないといった状況から、市の姿勢には疑問を感じている。

(事務局)

本件については、担当課へ周知するとともに、本会議においてそのような意見があったことを

きちんと共有し対応にあたっていきたい。

(額川委員)

産科クリニックの誘致については、建設予定地の進展がないことから、計画が白紙になったのではと不安を感じている。開院の時期など進捗状況についてお知らせいただきたい。

(事務局)

誘致に際しては、建設資材の高騰などを受け、スムーズに進んでいないと伺っている。社会情勢が不安定な中、事業者としても建設費が定まらない状況から、採算の見通しを図るうえで慎重になるところであり、市もそれに対しどのようなサポートができるかなど、検討と調整を行っている状況であり、建設工事の着手時期など具体的なことはお答えしづらい状況である。

(高橋委員)

ファミリーサポートセンターについてはコロナ過もあり、利用が進まなかった状況があったかと思う。しかし、コロナが明けても中々利用が進んでいない状況であると感じている。その理由はサポーターへの対応が進んでいないからではないかと考える。サポーターの養成についてはどのようなことを行っているか。

サポーターが増えれば利用も増えていくのではないかと考えている。

(事務局)

サポーターの研修については、今年度実施予定である。ファミリーサポートセンターの利用は、コロナ過だったこともあり、直近3年間は0件であった。今年度も現時点で実績はないが、利用の依頼は出てきている。しかしながら日程や時間等がサポーターとの都合と合わず、利用に至っていない状況である。

(高橋委員)

うまくマッチングできないことに関しては、サポーターの人数が少ないことも起因していると思う。サポーターを増やし、100人規模の体制としていく事、また専門職の方を備えていく事で安定した運用ができるのではないかと考える。

(平山委員)

香取市の放課後児童クラブの運営を受託しており今年で4年目となる。当初学校との情報のやり取りがスムーズにいかない状況があり、非常に苦労した。現場では様々な事案が生じるが、現在ではお子さんの情報のやり取りが学校や子育て支援課を通じた情報共有により、非常にスムーズにできるようになった。関係者の方々に感謝を申し上げたい。

(3) 第3期香取市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュールについて

《事務局からの資料説明》

香取市子ども・子育て支援事業計画については、現行の第期計画が令和6年度末までとなっている。令和7年度からの第3期計画の策定に向け、10月末から支援事業者の公募を実施する。事業者の選定にあたっては、応募者の提案資料を基に市の選定委員会にて評価を行うプロポーザル方式で行う。行程としては、令和5年度はニーズ調査を主に実施し令和6年度は、本格的な計画策定期間となることから、本会議の開催は3回程度を予定している。

《質疑応答》

(高橋委員)

ニーズ調査については今後事業者への業務委託によりその経費が掛かってくると思う。アンケートの収集作業などは、グーグルフォームを利用したりすれば、手軽にアンケートを行うこともできる。市のほうでも調査方法を工夫し、経費削減につながる実施方法について検討してもよいと考える。

5. その他

《事務局から説明》

- ・委員任期と委員の継続について

委員任期が令和5年10月31日までの委員に対し、再任について依頼。

- ・次回会議について

令和6年2月下旬頃を予定。

6. 閉会 以上